

2020年11月1日CS中高科教案

ヨハネによる福音書14章1～14節「命に至る道」

皆様、おはようございます。いかがお過ごしでしょうか。

早いもので、今年も残り2ヶ月。もっとも、言うまでもなく新型コロナウイルスの影響で、いつもとはまるで違う一年になってしまいました。当然、クリスマスもどうなるやら。

そんな中でも、いつも通りに神様の救いのみ言葉を伝えるわけですが、「父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからである。」(マタイによる福音書5章45節)とある。神様がいつでも、誰にでも、救いの恵みの機会を与え続けておられるならば、こんな今だからこそみ言葉を述べ伝えるべきだね。

けさの聖書箇所は、イエス様自身が自らの正体と役割を改めて弟子たちに明かしている。ひと言で言えば、イエス様はたったおひとかたの創造主である神様の一人息子で、かつ、父なる神様への救いと恵みにつながる、たった一つの方法、道であるということ。

なぜ、イエス様はこのようなことを、いま弟子たちに伝えたかったのか。それは、この聖書箇所の前後に記されてあるけれど、夜が明けたらイエス様は十字架に架けられて処刑されるから。もう残り時間が無いので、弟子たちにいわば最後のメッセージを伝えたかった。

にもかかわらず、弟子たちがイエス様のお話を正確に理解したとは言いがたい。今まで共に寝泊まりして宣教し、イエス様が神様の子だとまではぼんやり分かっているけれども、具体的にどんなお方か、まだつかみ切れていない。だから、トマスやフィリポがトンチンカンなことをたずねた。

でも、今の日本に生きる私たちからすると、まだトマスやフィリポは良いほうかも知れないね。今年は新型コロナウイルスでどうなるか分からないけれど、いつもならクリスマスを単におもちゃ屋や居酒屋などのかき入れ時としか考えない連中が多いから。御子イエス様の誕生という神様からのクリスマスプレゼントを何だと思っているんだか。

ともあれ、弟子たちがイエス様のことを正確に理解するのは、このあとさらに、イエス様が十字架刑による死からよみがえって、弟子たちの前に現れ、天に昇られてから、やっと。この間およそ40日。それから弟子たちは世界へ布教に出ることになる。

イエス様と生活や行動を共にした弟子たちでも、イエス様こそまことの救いの道、生まれながら持つ罪からの救い主だと理解するまでこんなに時間がかかった。となると、身近にイエス様がおられない今の私たちがイエス様を信じ、受け入れるのはもっと大変、いや、できないことなのかな？そんなことは決してない。だったら、キリスト教はとっくの昔にほろびているよ。こうして、この私もイエス様の救いにつながれた者の端くれとして(この言い方はさておき…)、皆さんにこうしてまことの救いと恵みの道を伝えている。…何てえらそうなのかな…。

今すぐには理解できなくても、イエス様を信じるとは、は父なる神様への恵みと救いにつながる、確かにしてたった一つの道であること、その救いに全ての人につながることを神様は今も辛抱強くお待ちであること、そのことを今日は覚えて下さい。